

7 古典

■学習日

確認問題

1 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

ある僧、「われは生まれてよりこのかた、腹を立てず」と①いひけり。あ
る人はこれを信ぜず。^⑦「*^{ほんぶ}凡夫、三毒あり。腹立たぬ人はなきことなり」
といへば、^①「いささかも腹を立てず」といふを、なほ信ぜずして、^ウ「ま
ことともおぼえず。^②そらごととおぼゆ」といはれて、^エ「立たぬといへば、
立たぬなり」とて、顔を*あかめてしかりけり。

- (1) 次のそれぞれの文の——線部を現代仮名づかいに直して答えなさい。
- ① いはくあり氣。
- ② 昨日の味方、けふの敵。
- ③ いとをかし。
- ④ 皆の者、づが高い。
- ⑤ 荒き波のこそ。
- (2) 次のそれぞれの文を現代語に訳したときに、□に入る最も適切な
助詞をあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。
- ① 心細く住みなしたるいほり □あり。
- ② いとちひさくみゆる □はいとをかし。
- ③ 火など □いそぎおこして、炭もてわたるもいとつきづきし。
- ④ 「夜に入りて、物のはえなし」といふ人 □、いとくちをし。

ア は イ の ウ を エ が

- (3) 次のそれぞれの文の——線部と係り結びの関係にある部分を書き抜い
て答えなさい。
- ① 和歌こそなほをかしきものなれ。
- ② 生きとし生けるもの、いづれか歌をよまだりける。
- ③ なほ、梅の匂ひにぞ、古へのこともたちかへり恋しう思ひ出でらる
る。

(注) 凡夫、三毒あり=人はだれでも「貪欲・瞋恚(しんに)
・愚痴(ぐち)(無知)」の三つの欠点からは逃れられない。
あかめて=赤らめて。

(無住一円「沙石集」より)

□(1) ——線①「いひけり」を現代仮名づかいに直して答えなさい。

□(2) ^ア~^エの会話文の中から「ある僧」のことばを一つ選び、記号で答えな
さい。

□□□

□(3) この話のおかしみはどんなところにありますか。次から最も適切なもの
を選び、記号で答えなさい。

ア ある人が「凡夫、三毒あり」の意味を取り違えて、ある僧にしかられ
てしまつたところ。

イ ある僧が、自分の言つたことに反する行為を、ついついしてしまつた
ところ。

ウ ある人が、ある僧の自慢話をそのまま信じたために、恥をかいてし
ところ。

まつたところ。

工 ある僧が、ある人に仏の教えを説こうとしたが、逆に教えざとされてしまったところ。

(4) — 線② 「そら」と「おぼゆ」について次のそれぞれの問い合わせに答えなさい

卷之三

② 「そら」ととおぼゆ」を、「ある僧」ということばを必ず使い、何が「そらごと」なのかを具体的に明らかにして、三十五字以内の現代語に訳して答えなさい。

(句読点を含みます)

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

* 寛平の歌合に、「初雁」を*友則
* 春霞かすみて、いにし雁がねの今ぞ鳴くなる秋霧の上に

*左方にてありけるに、
五文字を詠じたりける時、右方の人々、ことごとく

せざなりにけれ。ものを聞きはてず、ひた騒ぎに笑ふこと、
となり。

〔十訓抄より〕

(注) 寛平は平安時代初期の年号。八八九～八九八

歌合＝左方・右方に分かれた歌人たちが、与えられた題（この場合

を競つたもの。

きのこ きんしふ

友則＝紀友則。古今集撰者の一人であった。生没年不詳。

には「題しらず」、「詠み人しらず」で載っている。

音もせざなりにけれり声ひとつ立てなくなつてしまつた。

線①「五文字」を歌の中からひらがなで五字で書きぬいて答えなさい。

練② 音もせすなりにけれは、だれの様子について述べたものか。
から適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

右方の人 工 世間の人

*に入る助詞を、——線②「音もせすなりにけれ」「けれ」は已然の部分を参考にして、次から一つ選び、記号で答えなさい。

こそ
才なむ

線(3) 「あるまじきことなり」を、現代語に訳して答えなさい。

ANSWER

5

練成問題

- 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

* 相模守時頼の母は、松下禅尼とぞ申しける。守を*入れ申さることありけるに、すすけたる*明障子の破ればかりを、禅尼手づから小刀して切りまはしつ張られければ、兄の城介義景、その日の*けいめいして候ひけるが、「賜はりて、なにがし男に張らせ候はん。①さやうのこととに、心得たる者に候ふ」と申されければ、「その男、*尼が細工によもまさりはべらじ」とて、なほ*一問づ張られるを、義景、「皆を張りかへ候はんは、はるかにたやすく候ふべし。まだらに候ふも見苦しくや」と重ねて申されければ、②尼も、後は、*さはさはと張りかへんと思へども、今日ばかりは、③わざとかくてあるべきなり。物は破れたる所ばかりを修理して用ゐることぞと、④若き人に見習はせて、心づけんためなり、と申されける。いとありがたかりけり。世を治むる道、※を本とす。女性なれども、聖人の心にかよへり。天下を保つ程の人を、子にて持たれける、誠にただ人にはあらざりけれどぞ。

（吉田兼好「徒然草」より）

（注）相模守時頼＝北条時頼。鎌倉幕府の第五代執權。

入れ申さるる「御招待なさる」。

明障子＝現代の「ようじ」と同じ。

けいめい＝準備。

尼が細工によもまさりはべらじ＝尼の私の張り方よりも決して上手

ではないでしょう。

一問＝しようじのひとこま。
さはさはと＝さつぱりと。

□(1) ——線②「尼も」で始まる「松下禅尼」のことばはどこまで続きますか。
最後の八字（読点は含みません）を書き抜いて答えなさい。

□(2) ——線③「わざとかくてあるべきなり」の意味として最も適切なものを

次から選び、記号で答えなさい。

ア わざと下手な細工をしておくのがよいのです。

イ わざと破れたところだけ張りかえる方がよいのです。

ウ わざと破れたままにしておくのがよいのです。

エ わざとゆっくり見苦しく修理しておく方がよいのです。

□(3) ——線④「若き人」と同一人物を指すことばを次から二つ選び、記号で

答えなさい。

ア 相模守時頼
エ 女性
工 慈愛
才 聖人
力 天下を保つ程の人

□(4)

※に入る、この文章の主題の一つになつてゐる徳目を表すことばとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 礼節
エ 儉約
工 慈愛
才 信頼
力 孝養
ウ 正義

□(5)

——線①「さやうのこと」の指してゐる具体的な内容を、「こと」という形で、十五字以内の現代語に訳して答えなさい。（句読点を含みます）

こ	と	。